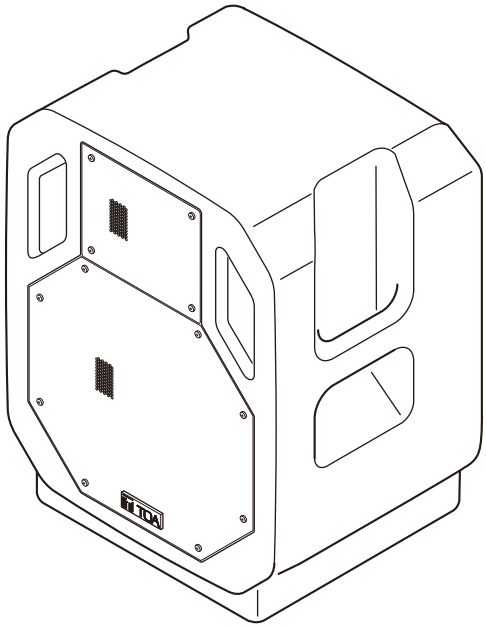
TOA

# 取扱説明書

# 移動用 PA ワイヤレス パワードスピーカー

# KZ-100WS



**ご注意**

本機は防滴仕様ですが、屋外に常設しないでください。
雨水が機器の内部に侵入して、故障することがあります。

このたびは、TOA 移動用 PA ワイヤレスパワードスピーカーをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

# 目　次


安全上のご注意 ..... 3

概　要 ..... 5

特　長 ..... 5

使用上のご注意 ..... 5

各部の名称とはたらき ..... 6
　［後面］ ..... 6

接続する ..... 9

ワイヤレスマイクを使う ..... 10
　操作のしかた ..... 10
　使用上のご注意 ..... 10
　チューナーユニットおよび Bluetooth® ユニットの組み込みかた ..... 11
　周波数を設定する ..... 12
　トーンスイッチで混信を防ぐ（WTU-1820 使用時のみ） ..... 14

Bluetooth 機器の使いかた ..... 15

有線マイクや外部機器を使う ..... 17

スタンドに取り付ける ..... 18

故障かな？と思ったら ..... 19

仕　様 ..... 20
　付属品 ..... 20
　別売品 ..... 20

# 安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。

**⚠ 警告**　誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

## 設置・据付をするとき

### 指定外の電源電圧で使用しない
表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

### 電源コードを傷つけない
電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

### 不安定な場所に置かない
ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

禁　止

### スタンドへの取り付けは 2 人以上で行う
1 人で行うと、落下したり、転倒したりして、けがの原因となります。

強　制

### スタンドの脚を最大に開き、安定した場所に置く
開きかたが足りないと、倒れて、けがの原因となります。

強　制

### 組み合わせは指定のものを使用する
スピーカースタンドは KZ-100ST を使用してください。
指定以外の組み合わせで使用すると、落下して、けがの原因となります。

強　制

### 電源のアースをとる
アース線を取り付けないと、漏電のとき、感電の原因となります。

アース線を接続せよ

## 使用するとき

### 万一、異常が起きたら
次の場合、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）
- 音が出ないとき

電源プラグを抜け

### 内部を開けない、改造しない
内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

### 故意に水をかけない
本機は防滴構造になっていますが、汚れを落とすなどの目的で故意に水をかけないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

### 雷が鳴ったらさわらない
雷が鳴り出したら、電源プラグやアンテナ線にはさわらないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

## ⚠ 注意

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 設置・据付をするとき

**ぬれた手で電源プラグをさわらない**
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

禁　止

**電源コードを引っ張らない**
電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

禁　止

**移動させるときは電源プラグを抜く**
差し込んだまま移動させるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

**湿気やほこりの多い場所などに置かない**
湿気やほこりの多い場所や熱器具の近くに置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

禁　止

**開梱や持ち運びは 2 人以上で行う**
1 人で行うと、落下したり、転倒したりして、けがの原因となることがあります。

強　制

**スタンド取り付け時は通路などに置かない**
通路など、人が足を引っ掛ける可能性がある場所には置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

**スタンド使用時は接続ケーブルの長さに余裕を持たせる**
余裕がないと、足などで引っ掛けたときに、倒れてけがの原因となることがあります。

強　制

**配線はアンプの電源を切ってから行う**
電源を入れたまま配線すると、感電の原因となることがあります。

強　制

## 使用するとき

**電源を入れる前には音量を最小にする**
音量を上げたまま電源を入れると、突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

強　制

**長時間、音が歪んだ状態で使わない**
スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁　止

**定期的に内部の掃除をする**
内部の掃除については、販売店にご相談ください。
内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災の原因となることがあります。

強　制

**電源プラグやコンセント部の掃除をする**
電源プラグを差してあるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。
また、電源プラグは根元まで差し込んでください。

強　制

**お手入れの際、長期間使用しない場合の注意**
お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
守らないと、感電・火災の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

**⚠ 注意**　誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 使用するとき

**製品の上に乗らない**
本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。
倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

**使用中はスピーカー直前に人を立たせない**
大音量により、聴力障害の原因となることがあります。

禁　止

# 概　要

本機は 100 W のパワーアンプを内蔵したワイヤレスパワードスピーカーです。
学校の運動会や文化祭、夏祭りのイベント、展示会場でのプレゼンテーションなど屋外での拡声に最適です。
別売のワイヤレスマイクやワイヤレスマイクミキサーと組み合わせて使用すると、複雑な配線が不要となり、簡単な操作で使用することができます。
また、ワイヤレスチューナーユニット収納部のうちの 1 カ所には、ワイヤレスチューナーユニットの代わりに、別売の Bluetooth ユニットを装着することもできます。

# 特　長

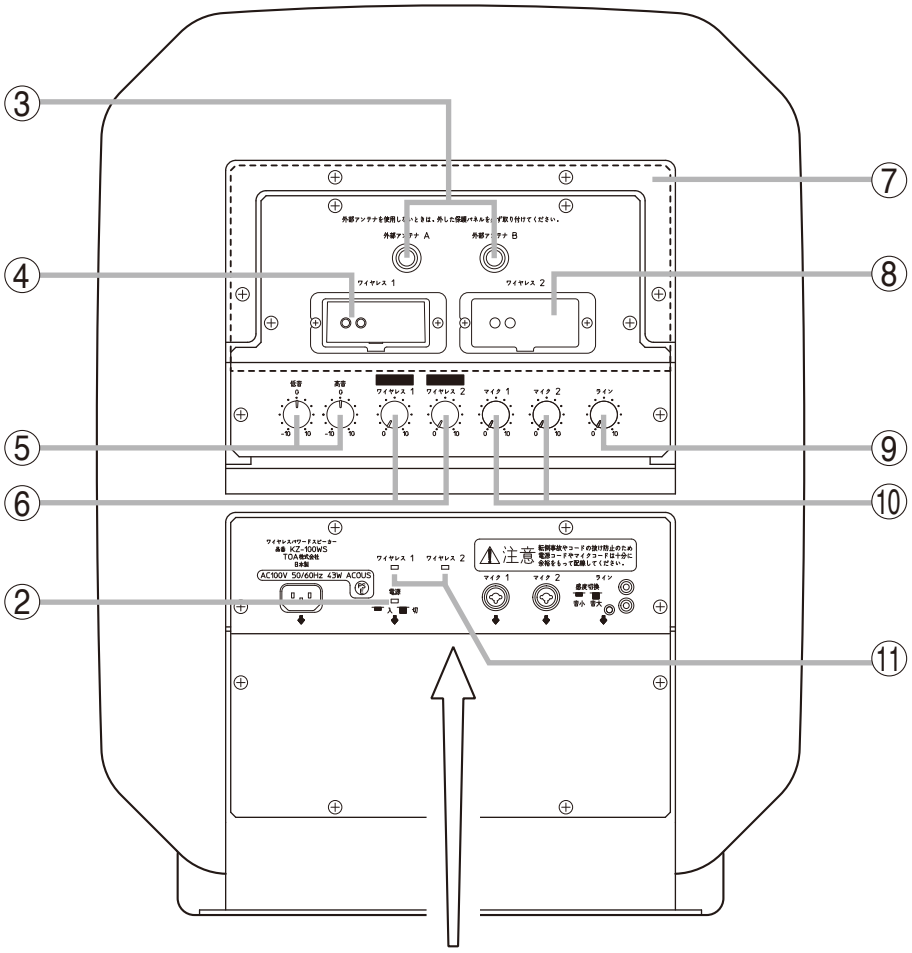
- 後面に保護パネルを取り付けている場合は、小雨時でもお使いいただけます。
  （JIS C0920 保護等級：IP22 *1 に準拠）
  *1 人の指を危険な箇所へ近づけられないよう保護されていること、また、本機を鉛直に対して 15 °以内で傾斜したときに鉛直に落下する水滴によって正常な動作に影響がないこと、という条件を満たしています。
- 独自の増幅方式を用いた効率のよい、100 W の大出力アンプを内蔵しています。
- スピーカーは 2 ウェイ方式を採用し、明瞭で、迫力のある音を提供します。
  高域は高能率ドライバーユニットにより高い明瞭性を、低域は大型マグネット採用の 30 cm ウーハーにより、大出力に対応した迫力のある音場を提供します。
- 800 MHz ダイバシティ方式*2 のワイヤレスチューナーとアンテナを内蔵していますので、わずらわしい配線をせずに、音切れの少ない状態でお使いいただけます。
  *2 ダイバシティ方式とは、アンテナ回路が 2 系統あり、受信感度の良いアンテナを自動的に選択し、電波を受信する方式です。受信不良による音切れを少なくする効果があります。
- Bluetooth に対応しており、別売の Bluetooth ユニットを装着すれば、スマートフォンなどから Bluetooth 接続で音源を再生できます。
- 別売の外部アンテナも使用できます。
- 本機専用のスピーカースタンド KZ-100ST を使用すると、安定した設置ができます。

# 使用上のご注意

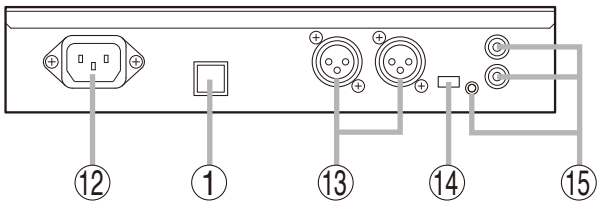
- 付属の電源コードは、本機専用品です。本機以外の機器に使用しないでください。
- ハウリング*3 が起きるときはマイクをスピーカーから離すか、音量を下げてお使いください。
  また、スピーカーを話者よりも聞き手方向に向けて設置すると、ハウリングが起こりにくくなります。
  *3 スピーカーから出た音をマイクが拾ってしまい、その音をまたアンプが増幅し、さらにスピーカーが拡声するという一種のループ状態が生じて、キーンという音がすること。
- 大きな音（過入力）が入力されると、音が歪むことがあります。使用中にこのような症状が現れたときは、音量を小さくしてください。
  また、直射日光などにより機器内部の温度が異常に上昇すると、出力が出なくなることがあります。このときはいったん電源を切り、音量を下げてから、もう一度電源を入れなおしてください。
- お手入れは、必ず電源を切ってから乾いたやわらかい布で拭いてください。特に、雨の中で使用した後は、よく拭いてください。また、ひどい汚れは中性洗剤をしみこませた布を使用してください。

# 各部の名称とはたらき

［後面］



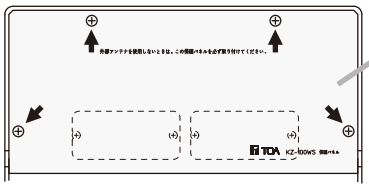

矢印方向から見た図

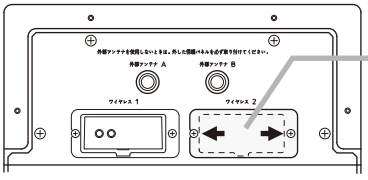



［保護パネルおよびチューナーユニット収納部カバーの外しかた］

※ 矢印のねじを取り外します。

※ コード設定スイッチとモード切換スイッチはWTU-D2810を使用するときのみ設定します。
（WTU-D2810周波数設定ガイド*参照）




**保護パネルを取り外す場合**

- 周波数を設定するとき（P. 12）
- トーンスイッチを設定するとき（P. 6）
- コード設定スイッチを設定するとき
- モード切換スイッチを設定するとき
- 外部アンテナを接続するとき（P. 9）
- チューナーユニットまたは Bluetooth ユニットを増設するとき（P. 11）

**収納部カバーを取り外す場合**

- トーンスイッチを設定するとき（P. 14）
- コード設定スイッチを設定するとき
- モード切換スイッチを設定するとき
- チューナーユニットまたは Bluetooth ユニットを増設するとき（P. 11）

① **電源スイッチ**
押すと電源が入り、もう一度押すと切れます。

② **電源表示灯**
電源を入れると緑色に点灯します。

③ **外部アンテナ端子**
外部アンテナを接続するときは、別売の YW-550 などをお使いください。

④ **ワイヤレス 1 チューナーユニット収納部**
ワイヤレス 1 のチューナーユニットは標準でダイバシティチューナーユニット WTU-1820 が内蔵されています。

**ご注意**

別売のワイヤレスマイクと本機チューナーユニットのグループ・チャンネル（お買い上げ時はチャンネル呼称 B11）を合わせてください。（☞ P. 12）

⑤ **音質つまみ**
低音：低い音が左に回すと減衰し、右に回すと増強されます。通常は中央で使用します。
高音：高い音が左に回すと減衰し、右に回すと増強されます。通常は中央で使用します。

⑥ **ワイヤレス音量つまみ**
ワイヤレス 1 または 2 チューナーで受信したワイヤレスマイクの音量を調節します。

⑦ **保護パネル**
チューナーユニット収納部と外部アンテナ端子③を雨やほこりから保護するために取り付けます。

**ご注意**

外部アンテナを使用しないときは、必ず保護パネルを装着した状態でお使いください。

⑧ **ワイヤレス 2 チューナーユニット収納部**
標準では空きになっています。別売のワイヤレスチューナーユニットまたは別売の Bluetooth ユニットを 1 台増設できます。（☞ P. 11）
適合するユニットは次のとおりです。

| | |
|---|---|
| ワイヤレスチューナーユニット | WTU-1820（アナログ） |
| | WTU-D2810（デジタル） |
| Bluetooth ユニット | WTU-BT01 |

**ご注意**

ワイヤレスマイクを使用する場合は、別売のワイヤレスマイクと本機に組み込んだワイヤレスチューナーユニットのグループ、チャンネルを合わせてください。（☞ P. 12）
Bluetooth 機器を使用する場合は、市販の Bluetooth 機器と本機に組み込んだ別売の Bluetooth ユニットをペアリング（接続）してください。（☞ P. 15）

⑨ **ライン入力音量つまみ**
ライン入力端子⑮に接続された機器の音量を調節します。

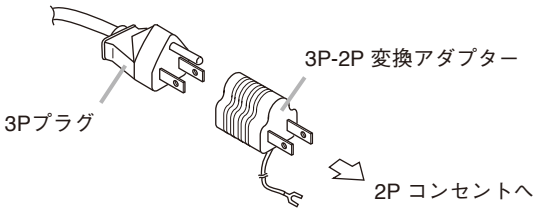
⑩ **有線マイク音量つまみ**
マイク入力端子 1 または 2 ⑬に接続された有線マイクの音量を調節します。

⑪ **受信表示灯**
ワイヤレスマイクの電波を受信すると、オレンジ色に点灯します。
デジタルワイヤレスチューナーユニットを組み込んでいる場合のみ、妨害電波を受信したときやコード設定またはモード設定が一致していないときには点滅します。（WTU-D2810 周波数設定ガイド*参照）
別売の Bluetooth ユニットを使用するときは、状態に応じて次のように動作します。

| 状態 | 動作 |
|---|---|
| ペアリング中／待機中 | 点滅 |
| ペアリング完了 | 点灯 |

⑫ **AC 電源インレット**
付属の電源コードを使って、AC 100 V（50 Hz または 60 Hz）に接続します。

電源コードの先端（AC コンセント側）はアース付きの 3P プラグになっています。AC コンセントが 2P 差し込み口のときは付属の 3P-2P 変換アダプターをお使いください。




**⚠ 警告**

本機を使用するときは、電源コードのアースをとってください。
アースをとらないと漏電のとき感電の原因となります。
アース接続は必ず、主電源プラグを主電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続を外す場合は、必ず主電源プラグを主電源から切り離してから行ってください。

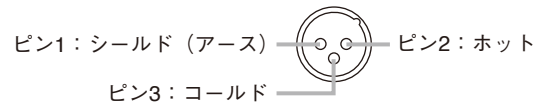
* TOA 商品データダウンロードサイト（https://www.toa-products.com/）の WTU-D2810 のページからダウンロードできます。

### ⑬ マイク入力端子

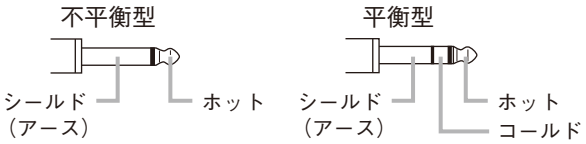
−60 dB *、600 Ω、不平衡のマイク 1 または 2 入力端子です。有線マイクを接続します。XLR 型、ホーンジャック共用でお使いいただけます。

**使用できるコネクター**

● XLR型コネクター（XLR-3-12C相当）




● ホーンプラグ




### ⑭ 入力感度切換スイッチ

通常は「音大（ ▬ ）」で使用します。ライン入力⑮に接続された演奏機器によっては、大きな音が出て、音量つまみで調節しきれないことがあります。そのようなときに「音小（ ▬ ）」に切り換えると、最適な音量調節を行うことができます。

入力感度：「音大」（お買い上げ時）−14 dB *
「音小」+5 dB *

### ⑮ ライン入力端子

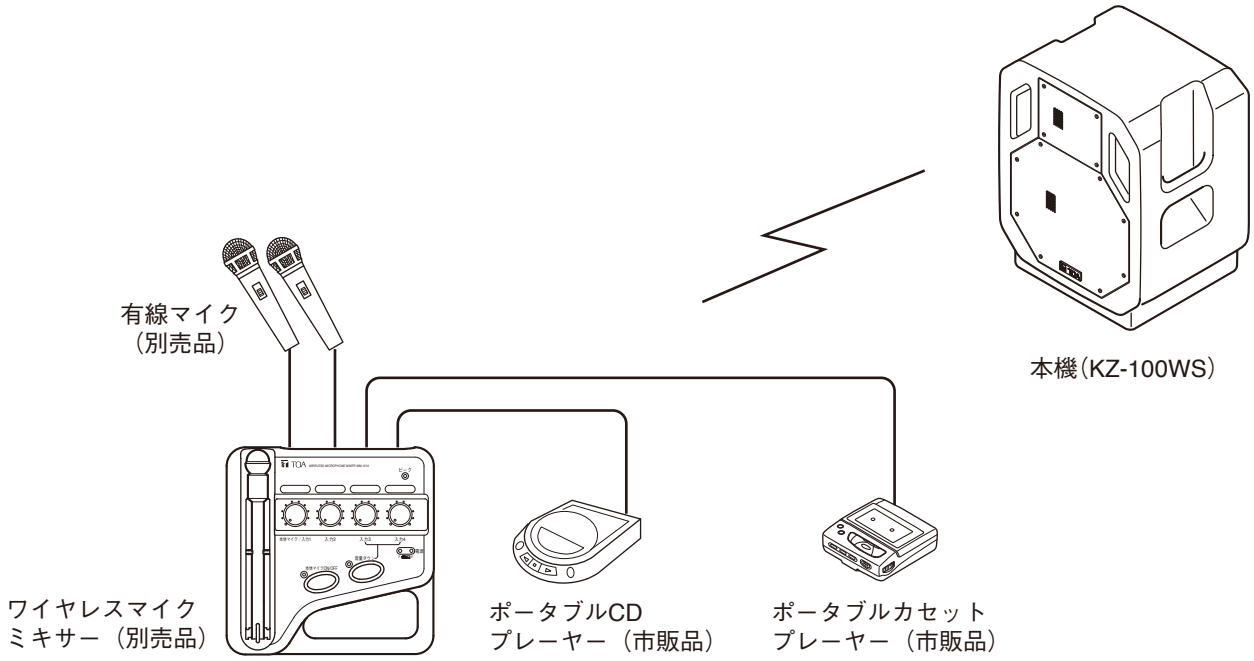
−14 dB * /+5 dB *、10 kΩ、不平衡の入力です。入力感度は、入力感度切換スイッチ⑭で切り換えます。

CD、MD プレーヤーなど外部演奏機器を接続します。ミニジャックまたはピンジャックを使用することができます。

* 0 dB = 1 V

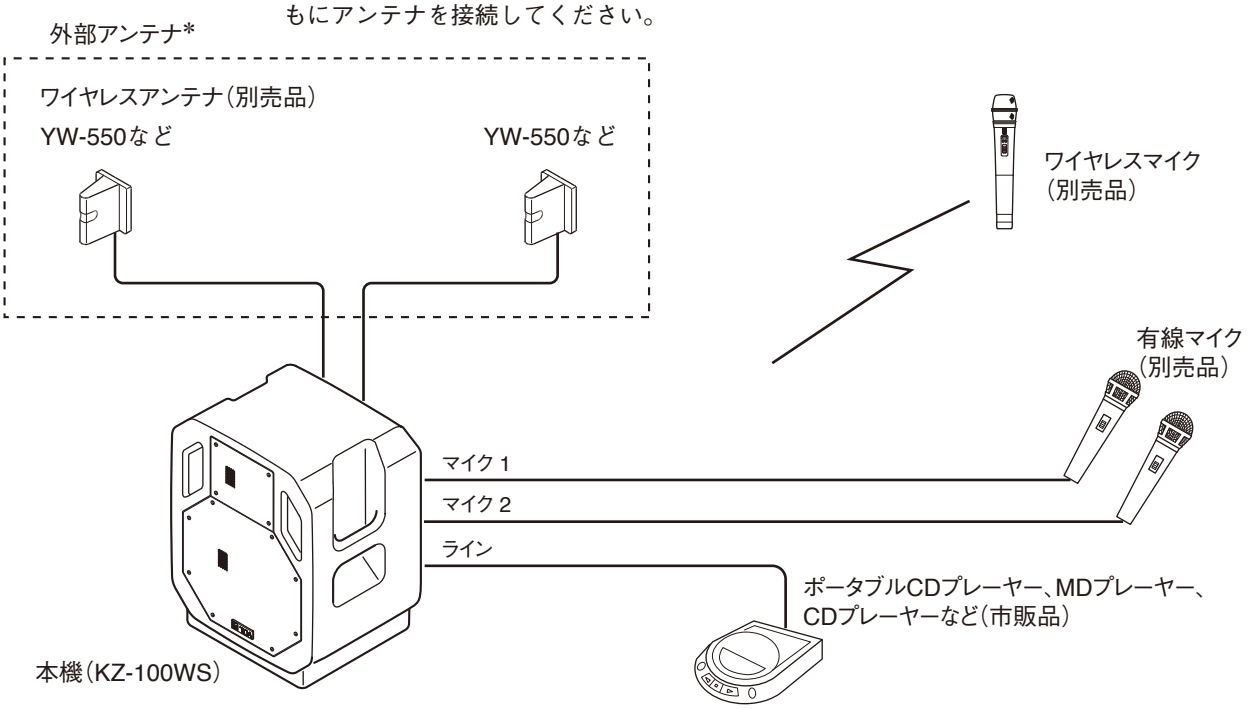
# 接続する

## ● 接続例 1：ワイヤレスマイクミキサーと組み合わせる



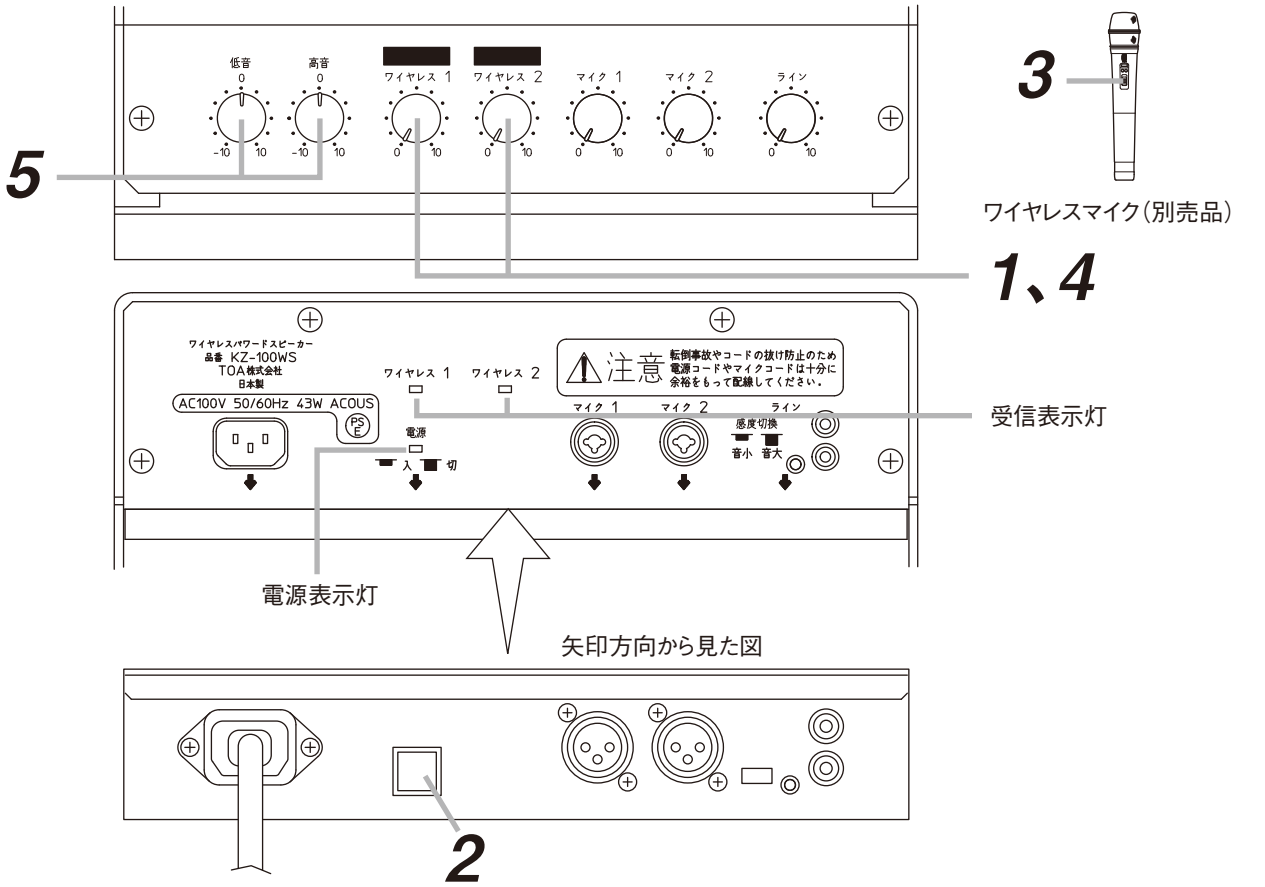

## ● 接続例 2：ワイヤレスマイク、有線マイク、および外部機器と組み合わせる

*本機を屋内で使用する場合、デッドポイントが発生するなど良好な受信ができないときは、外部アンテナのご使用をおすすめします。外部アンテナを使用するときは、外部アンテナ端子AとBの2カ所ともにアンテナを接続してください。



# ワイヤレスマイクを使う

## ■ 操作のしかた




**1** すべての音量つまみの音量を絞る。

**2** 電源スイッチを「入」にする。
電源表示灯が緑色に点灯します。

**3** ワイヤレスマイクの電源スイッチを入れる。
受信表示灯がオレンジ色に点灯します。

**4** 該当するワイヤレスマイク音量つまみで音量を調節する。

**5** 音質つまみで音質を調節する。

**⚠ 警告**

使用中はスピーカー直前に人を立たせないようにしてください。
大音量により聴力障害の原因となることがあります。

## ■ 使用上のご注意

### ● 機器の組み合わせ

・ワイヤレス 1 チューナーユニット収納部にはチューナーユニット WTU-1820 が 1 台内蔵されています。
ワイヤレス 2 チューナーユニット収納部にチューナーユニットを増設するときは以下の製品が使用できます。
WTU-1820（アナログ、ダイバシティ）、WTU-D2810（デジタル、ダイバシティ）
※ WTU-1820 と WTU-D2810 の混在可

・ワイヤレスマイクは使用するチューナーユニットに合わせて、TOA 800 MHz 帯 B 型ワイヤレスマイクまたは 800 MHz 帯デジタルワイヤレスマイクを使用してください。

| チューナーユニット | 通信方式 | 使用できるワイヤレスマイク（別売） |
|---|---|---|
| WTU-1820 | アナログ | 800 MHz 帯 B 型ワイヤレスマイク　WM-1220、WM-1320 など |
| WTU-D2810 | デジタル | 800 MHz 帯デジタルワイヤレスマイク　WM-D1210、WM-D1310 など |

### ● 周波数の設定が必要なとき

・同じ周波数のマイクは同時に使用できません。
・チューナーユニットを増設したときは、ワイヤレス 1 とワイヤレス 2 の周波数が必ず同じグループ内の異なるチャンネルになるように設定してください。
・本機の電源を入れて、ワイヤレスマイクの電源を入れる前に受信表示灯が点灯または点滅するときは、設定されたチャンネルが使用中です。他のチャンネルに変更してください。
・使用中に混信が発生するときは、周波数の設定を変更してください。
混信が発生すると、音の途切れや異音が出ることがあります。

### ● 各機器間の距離

・本機とワイヤレスマイクの距離は 3 m から 20 m 程度で使用してください。
・3 m 以内で使用すると雑音を発生したり、混信の原因になることがあります。
・2 つの異なるチャンネルを同時に使用するとき、2 つのマイク間の距離は 50 cm 以上離してください。

## ■ チューナーユニットおよび Bluetooth® ユニットの組み込みかた

指定のチューナーユニット（☞ 前ページ）または Bluetooth ユニット WTU-BT01 を組み込んでください。

**ご注意**

- ユニットが指定の品番であることを確認してから組み込んでください。
- 静電気による破損を防ぐため、金属物に触れるなどして、人体や衣服に帯電した静電気を逃してから作業を行ってください。
- ユニットの金めっき端子部に触れないようにしてください。
- 必ず本機の電源を切ってから作業してください。

**1** 電源スイッチを「切」にする。

**2** 保護パネルを外し、空いているチューナーユニット収納部のカバーを外す。（☞ P. 6）

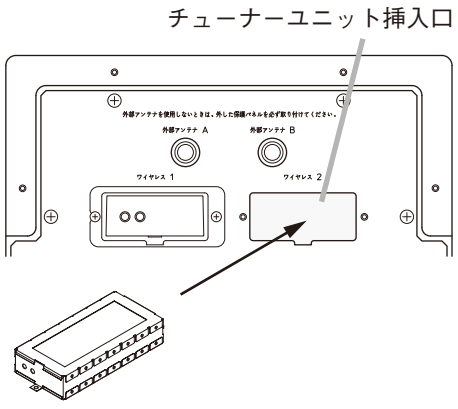
**3** チューナーユニットを挿入し、奥のコネクターに確実に差し込む。

メ　モ

ユニットを引き出すときは、突起部をラジオペンチなどでつかんで引き抜いてください。

**4** 増設したチューナーユニットの周波数を設定する。

**5** 外したカバーとパネルを元どおりに取り付ける。




WTU-1820、WTU-D2800、またはWTU-BT01
（すべて別売品）

# ■ 周波数を設定する

本機に内蔵のチューナーユニット WTU-1820 はあらかじめチャンネル呼称 B11 に設定されています。
使用中に混信妨害が発生したときには異なるチャンネルを設定してください。

## ● 800 MHz 帯ワイヤレスマイクのチャンネル呼称について

例　B　1　1
- 1（右）：グループ内のチャンネル番号を表す
- 1（中）：グループ番号を表す
- B：800 MHz 帯を表す

## ● 設定のしかた

**1** **電源スイッチを「切」にする。**

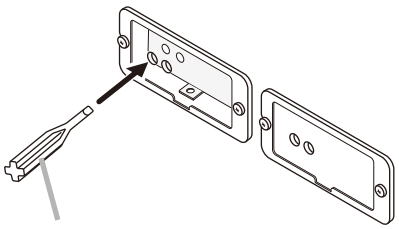
**2** **保護パネルを外す。**（☞ P. 6）

**3** **設定するグループとチャンネル番号を決める。**
次項の「グループのチャンネル番号の決めかた」をお読みください。

ご注意

デジタルワイヤレスチューナーユニット WTU-D2810 を使用する場合は条件が異なりますので、必ず WTU-D2810 周波数設定ガイド* をお読みください。

**4** **設定スイッチの矢印を、決めたグループおよびチャンネル番号の数字に設定する。**
設定には、本機またはチューナーユニットに付属の設定ドライバーを使用してください。



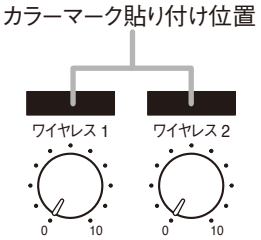
チャンネル設定ドライバー
（付属品）

**5** **ワイヤレスマイクのグループおよびチャンネル番号を、チューナーユニットと同じグループおよびチャンネル番号に設定する。**

ご注意

ワイヤレスマイクに付属の設定ドライバーで、設定スイッチの矢印をチューナーユニットと同じグループおよびチャンネル番号の数字に設定してください。
詳しくは、ワイヤレスマイクの取扱説明書をお読みください。

**6** **音量つまみの上部に、ワイヤレスマイクと同じ色のカラーマーク（付属品）を貼る。**




**7** **保護パネルを元どおりに取り付ける。**

## ● グループとチャンネル番号の決めかた
（ワイヤレス 1、ワイヤレス 2 ともに WTU-1820 を使用する場合）

WTU-1820 は、お買い上げ時にはグループ番号 1、チャンネル番号 1（チャンネル呼称 B11）に設定されています。下記の周波数表にあるグループとチャンネルの組み合わせで使用してください。

**ご注意**

本機を含め、同じ場所でワイヤレスマイクを同時に 2 本以上使用するときは、必ず同じグループの中から異なるチャンネルを選んでください。

［周波数表（アナログ）］

| グループ | チャンネル | 呼称 | 周波数（MHz） | グループ | チャンネル | 呼称 | 周波数（MHz） | グループ | チャンネル | 呼称 | 周波数（MHz） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | B11 | 806.125 | 3 | 1 | B31 | 806.625 | 5 | 1 | B51 | 807.625 |
| | 2 | B12 | 806.375 | | 2 | B32 | 806.875 | | 2 | B52 | 808.125 |
| | 3 | B13 | 807.125 | | 3 | B33 | 807.375 | | 3 | B53 | 808.375 |
| | 4 | B14 | 807.750 | | 4 | B34 | 808.250 | | 4 | B54 | 808.750 |
| | 5 | B15 | 809.000 | | 5 | B35 | 808.625 | | 5 | B55 | 809.625 |
| | 6 | B16 | 809.500 | | 6 | B36 | 809.250 | 6 | 1 | B61 | 807.250 |
| 2 | 1 | B21 | 806.250 | 4 | 1 | B41 | 806.750 | | | | |
| | 2 | B22 | 806.500 | | 2 | B42 | 807.500 | | | | |
| | 3 | B23 | 807.000 | | 3 | B43 | 808.000 | | | | |
| | 4 | B24 | 807.875 | | 4 | B44 | 809.125 | | | | |
| | 5 | B25 | 808.500 | | 5 | B45 | 809.375 | | | | |
| | 6 | B26 | 808.875 | | 6 | B46 | 809.750 | | | | |

メ　モ

増設用としてデジタルチューナーユニット WTU-D2810 を使用するときは、WTU-D2810 周波数設定ガイド* に従って、グループおよびチャンネルを設定してください。

* TOA 商品データダウンロードサイト（https://www.toa-products.com/）の WTU-D2810 のページからダウンロードできます。

# ■ トーンスイッチで混信を防ぐ（WTU-1820 使用時のみ）

このスイッチの設定を変更するときには販売店にご相談ください。

## ● トーンのはたらき

ワイヤレスマイクの電源が入っていないときや、ワイヤレスマイクの電源は入っていても妨害電波が強いときに、本機から妨害電波の音声や雑音が聞こえることがあります。
この対策として、ワイヤレスマイクの電波にトーン信号をのせて送信し、ワイヤレスチューナーではトーン信号の含まれていないワイヤレスマイクの電波は、音声を出力しないようにしています。シンセサイザー方式のワイヤレスマイクおよびチューナーユニットはこのトーン信号を 3 種類搭載しており、状況により切り換えることができます。

**ご注意**

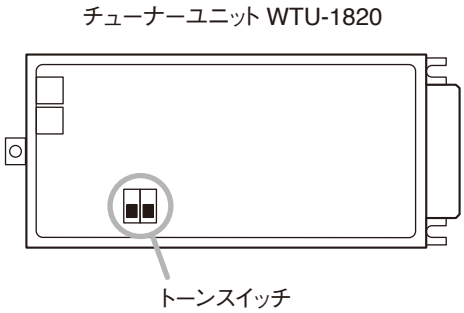
混信が非常に強い場合は、トーン信号の周波数を変えても正常に使用できないことがあります。

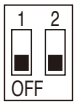
## ● トーンスイッチを設定する

### *1* チューナーユニットを引き出し（☞ P. 6）、ユニット上面のカバーを外す。

### *2* 基板上の 2 列のトーンスイッチをボールペンの先などで設定する。

トーン信号の周波数は、スイッチ位置により下表のように変化します。




| スイッチ位置 |  | | | |
|---|---|---|---|---|
| トーン信号周波数 | B1、B3グループ<br>32.768 kHz<br>B2、B4グループ<br>32.718 kHz<br>B5、B6グループ<br>32.818 kHz | すべてのグループ<br>32.718 kHz | すべてのグループ<br>32.768 kHz | すべてのグループ<br>32.818 kHz |



### *3* チューナーユニットを元どおりに収納する。

### *4* ワイヤレスマイクのトーン信号を同じ周波数に設定する。

手順 3 で設定したチューナーユニットのトーン信号に合わせます。

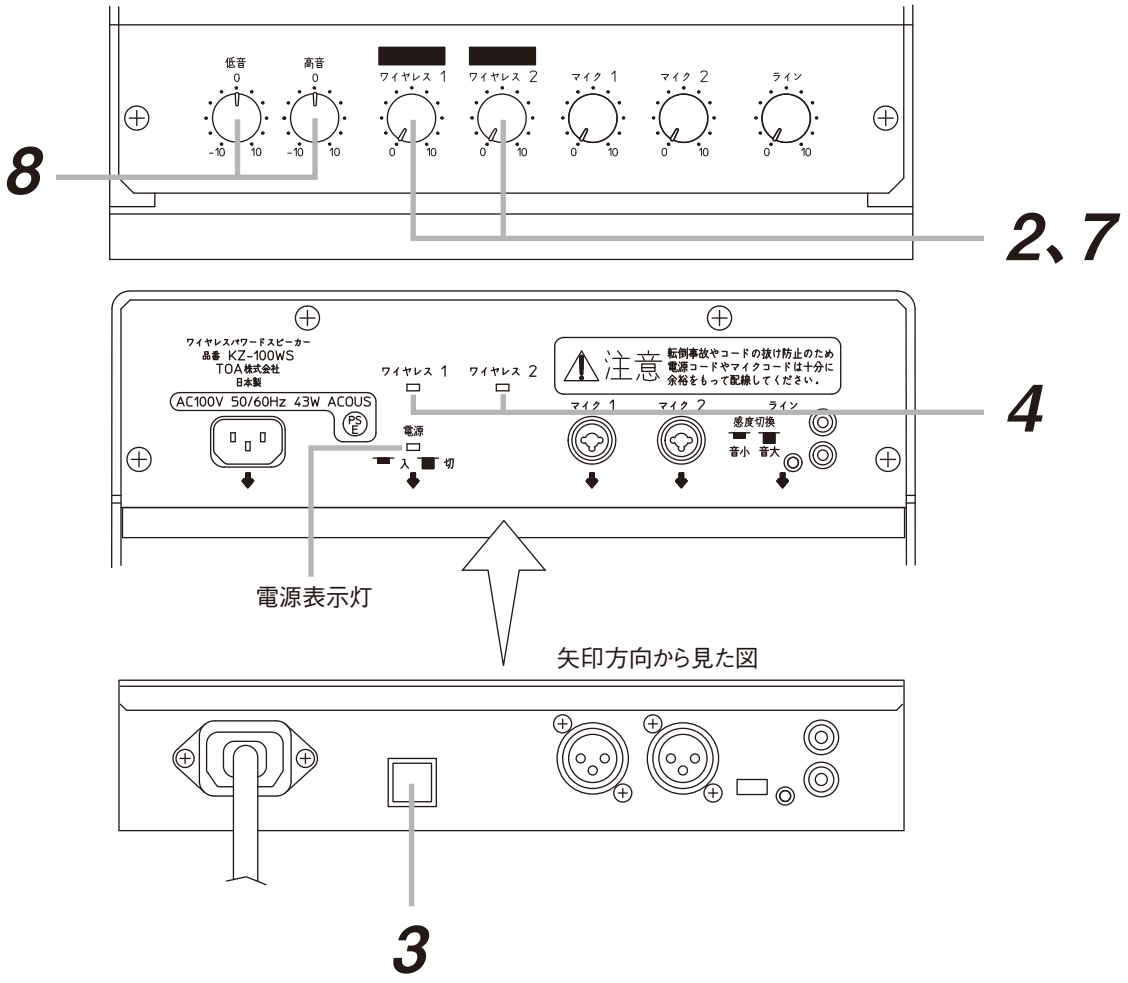
**ご注意**

- トーンスイッチを切り換える際、スイッチ以外の部品には触れないでください。故障や動作不良を起こすことがあります。
- ワイヤレスマイクとチューナーユニットは、グループ、チャンネル番号およびトーン信号の周波数がそれぞれ一致しないと正しく受信できません。
- お買い上げ時はトーンスイッチの位置は 1、2 ともに OFF の位置に設定しています。
- この機能は、トーンスイッチのついているワイヤレスマイクとチューナーユニットの組み合わせでのみ使用できます。トーンスイッチのついていない機器の組み合わせでは、スイッチ 1、2 ともに OFF の位置で使用してください。

# Bluetooth 機器の使いかた

以下は、本機に別売の Bluetooth ユニット WTU-BT01 を組み込んで、スマートフォンとペアリングさせるときの例です。

※ ヘッドホンなど、数字が入力できない Bluetooth 機器は使用できません。




**1** 使用するスマートフォンが他の Bluetooth 機器とペアリングされていないことを確認する。

確認の方法については、スマートフォンの説明書をお読みください。

**2** すべての音量つまみの音量を絞る。

**3** 電源スイッチを「入」にする。

電源表示灯が点灯します。

**4** 該当する受信表示灯が点滅していることを確認する。

## *5* ペアリング（接続）を行う。

スマートフォン側のペアリングとペアリング解除の方法については、スマートフォンの説明書をお読みください。

**ご注意**

別売の WTU-BT01 と同時にペアリングできるスマートフォンは、1 台のみです。
複数のスマートフォンで同時にペアリングしないでください。

メ　モ

別売の WTU-BT01 でペアリングの情報を記憶できるスマートフォンの台数は、最大 8 台です。
別売の WTU-BT01 に、最大登録数を超えて新しい機器を接続すると、接続履歴の一番古い機器の情報が削除されます。
そのときは、再度下記の手順で接続してください。

### *5-1* スマートフォンの Bluetooth 機能を ON にする。

### *5-2* スマートフォンの Bluetooth 設定画面で別売の Bluetooth ユニット WTU-BT01 を検索する。

Bluetooth ユニットの名称：TOA WTU-BT01　v＊.＊＊.＊＊
（＊はバージョン番号の数字です。）

［上記名称が表示されない場合］

他のスマートフォンとすでにペアリングされている可能性があります。ペアリング済みのスマートフォンでペアリングを切断してください。

［上記名称が複数表示される場合］

複数台の WTU-BT01 がペアリング待機中の状態です。ペアリングしたい機器のみ電源を入れてください。

### *5-3*「TOA WTU-BT01」を選択し、スマートフォンの表示にしたがって PIN コードを入力する。

PIN コード：0000

PIN コードを入力するとペアリングが始まります。
該当する受信表示灯が点灯するとペアリングは完了です。

メ　モ

2 回目以降に接続するときは、PIN コードの入力は不要です。

## *6* ペアリングしたスマートフォンで音源を再生する。

音源の再生と再生停止の方法は、スマートフォンの説明書をお読みください。

メ　モ

スマートフォンの音量は、半分くらいで使用するほうが、より良い音質で使用できます。

## *7* 音量を調節する。

該当するワイヤレス音量つまみをゆっくりと時計回りに回して、音量を調節してください。

**⚠ 警告**

使用中はスピーカー直前に人を立たせないようにしてください。
大音量により聴力障害の原因となることがあります。

## *8* 音質つまみで音質を調節する。

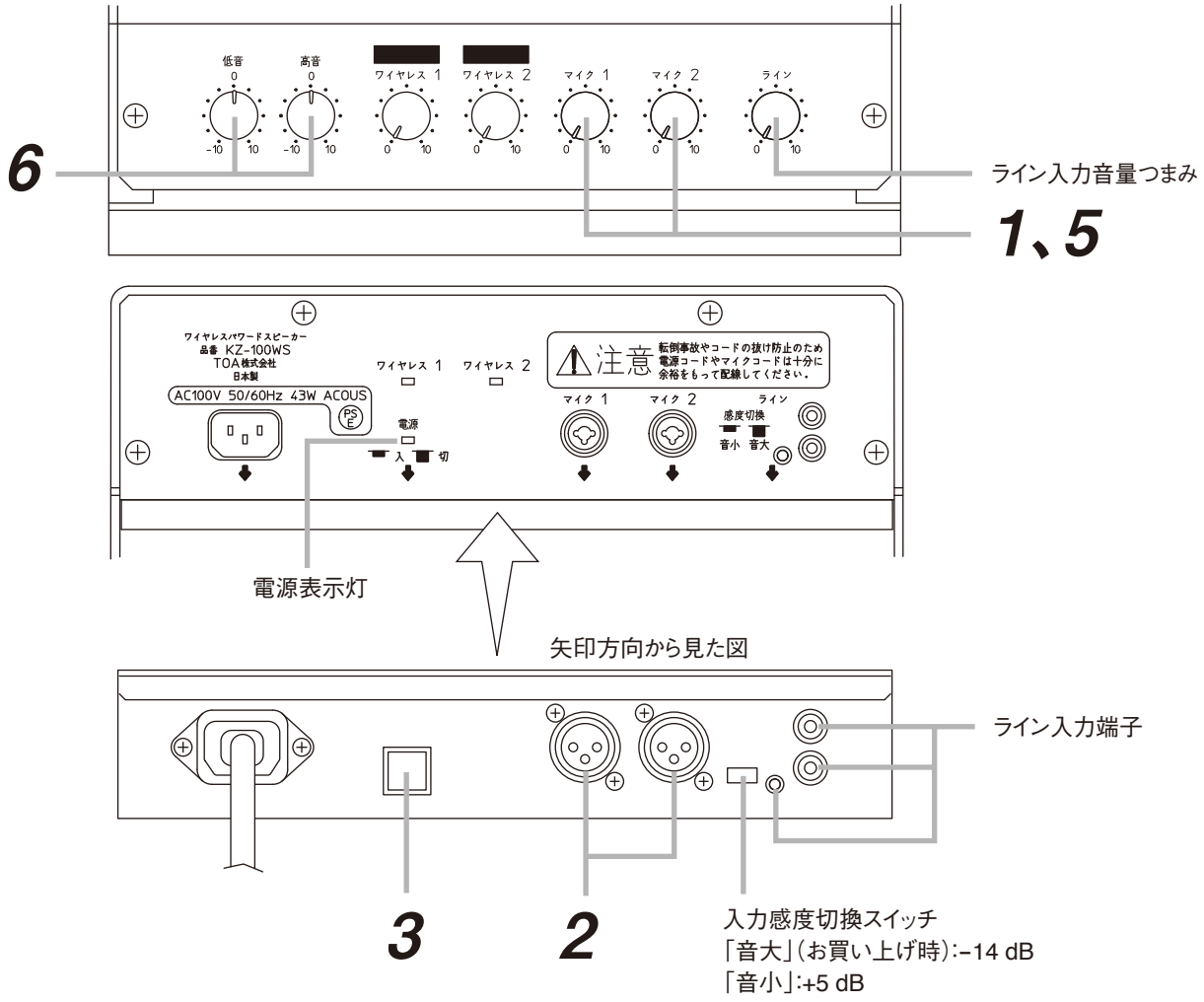
## *9* 使用後はペアリングを切断する。

切断の方法については、スマートフォンの説明書をお読みください。

# 有線マイクや外部機器を使う

以下の手順では、有線マイクの使いかたについて書いています。
外部機器の使いかたについても、接続する入力端子と音量つまみが異なるだけで、同様の手順となります。

※ ライン入力の入力感度切換スイッチは通常「音大（ ）」で使用します。ライン入力に接続された演奏機器によっては、大きな音が出て、音量つまみで調節しきれないことがあります。そのようなときに「音小（ ）」に切り換えると、最適な音量調節を行うことができます。




**1** すべての音量つまみの音量を絞る。

**2** 有線マイクをマイク 1 またはマイク 2 入力端子に接続する。

**3** 電源スイッチを「入」にする。
電源表示灯が点灯します。

**4** 有線マイクの電源スイッチを入れる。

**5** 該当する有線マイク音量つまみで音量を調節する。

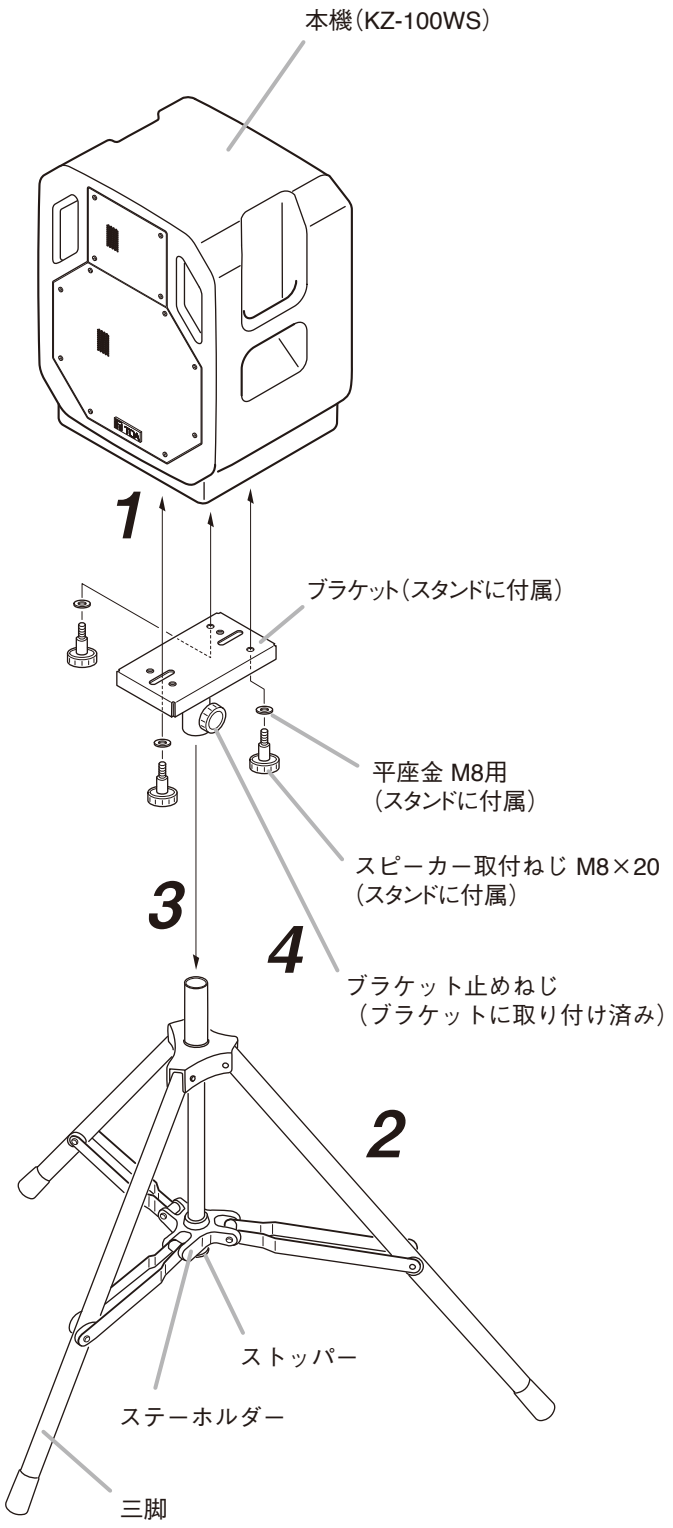
**6** 音質つまみで音質を調節する。

## ⚠ 警告

使用中はスピーカー直前に人を立たせないようにしてください。
大音量により聴力障害の原因となることがあります。

# スタンドに取り付ける

別売のスピーカースタンド KZ-100ST を使用します。




**1** **本機の底面にブラケットを取り付ける。**

取り付けには、スピーカー取付ねじ（M8）と平座金（M8 用）を使用します。

**2** **スタンドを立てる。**

三脚を開き、ステーホルダーがストッパーに当たるまで下げます。

> **⚠ 警告**
>
> スタンドの三脚を最大に開き、安定した場所に置いてください。
> 開きかたが足りないと、倒れて、けがの原因となります。

**3** **本機をスタンドに取り付ける。**

ブラケット止めねじをゆるめ、ブラケットをスタンドの先端に差し込みます。

> **⚠ 警告**
>
> 取り付けは、2 人以上で行ってください。
> 1 人で行うと、落下したり、転倒したりして、けがの原因となります。

**4** **スピーカーを固定する。**

スピーカーの向きを決め、ブラケット止めねじをしっかりと締め付けます。

**ご注意**

使用後にスタンドを閉じるときは、スタンドからスピーカーを取り外してください。
（スタンドの閉じかた：ステーホルダーを持ち上げてから、三脚を閉じます。）

# 故障かな？と思ったら

| 症　状 | 点検項目 | 処　置 |
|---|---|---|
| 電源スイッチを「入」にしても電源表示灯が点灯しない。（電源が入らない。） | 電源コードが本体とコンセントに接続されていますか？ | 本体の電源インレットとコンセントに電源コードを接続してください。 |
| 音が出ない。 | 音量つまみが最小になっていませんか？ | 音量つまみを時計回りに回してください。 |
| 音が歪む。 | 入力の音が大き過ぎませんか？ | 音量つまみを反時計回りに回して音量を絞ってください。<br>音量つまみで調節しきれないときは、入力感度切換スイッチを「音小（ ☚ ）」に切り換えて、再度音量つまみで調節してください。 |
| 使用中に出力が出なくなる。 | 直射日光などにより機器の温度が高い、または機器周囲の温度が高い環境下で使用していませんか？ | 本機の電源を切り、音量を下げてから再度電源を入れなおしてください。また、日陰や風通しのよい場所に移動させてください。 |

［ワイヤレスマイクを使用のとき］

| 症　状 | 点検項目 | 処　置 |
|---|---|---|
| 受信表示灯が点灯しない。（受信しない。） | ワイヤレスマイクの電源スイッチはONになっていますか？ | ワイヤレスマイクの電源スイッチをONにしてください。 |
| | ワイヤレスマイクの乾電池は消耗していませんか？ | 新しい乾電池と交換してください。 |
| | ワイヤレスマイクと本機のグループ・チャンネル番号が合っていますか？ | ワイヤレスマイクと本機のグループ・チャンネル番号を同じにしてください。（☞ P. 12） |
| 受信表示灯が点滅する。（WTU-D2810 を組み込んでいる場合のみ） | コード設定は正しいですか。 | チューナーユニットとワイヤレスマイクのコード設定を同じにしてください。（☞ WTU-D2810 周波数設定ガイド*） |
| | モード設定は正しいですか。 | チューナーユニットとワイヤレスマイクのモード設定を同じにしてください。（☞ WTU-D2810 周波数設定ガイド*） |
| | 妨害電波を受信していませんか。 | グループ・チャンネル番号の設定を変更してください。（☞ WTU-D2810 周波数設定ガイド*） |
| 他のワイヤレスマイクの音声を受信する。（混信する。） | ワイヤレスマイクと本機のグループ・チャンネル番号が合っていますか？ | ワイヤレスマイクと本機のグループ・チャンネル番号を同じにしてください。（☞ P. 12） |
| | 他のワイヤレスマイクと本機のグループ・チャンネル番号が同じになっていませんか？ | ご使用のワイヤレスマイクと、本機のグループ・チャンネル番号を変更してください。（☞ P. 12） |
| 音が聞き取りづらい。（ノイズが多い。） | ワイヤレスマイクと本機の間に障害物はありませんか？ | 障害物のない、見通しのよい状態でお使いください。 |

［Bluetooth 機器を使用のとき］

| 症　状 | 点検項目 | 処　置 |
|---|---|---|
| ペアリングができない。 | ワイヤレス受信表示灯が点灯していませんか？ | 本機の電源を入れなおして、再度ペアリングをしなおしてください。（☞ P. 15） |
| | 複数のスマートフォンなどで同時にペアリングしませんでしたか？ | 本機の電源を入れなおして、1 台でペアリングをしなおしてください。（☞ P. 15） |
| 音が極端に小さい、または音が出ない。 | 音量つまみが「0」になっていませんか？ | 音量つまみを時計回りに回してください。 |
| | Bluetooth 機器とペアリングしていますか？ | Bluetooth 機器とペアリングしてください。（☞ P. 15） |
| | Bluetooth 機器自体の音量が最小になっていませんか？ | Bluetooth 機器の音量を調節してください。 |

* TOA 商品データダウンロードサイト（https://www.toa-products.com/）の WTU-D2810 のページからダウンロードできます。

# 仕　様

| | | |
|---|---|---|
| 電源 | | AC100 V、50/60 Hz |
| 定格出力 | | 100 W |
| 最大出力 | | 150 W（JEITA TT-4503A） |
| 消費電力 | | 120 W（1 kHz、定格出力時）、43 W（電気用品安全法による） |
| 出力音圧レベル | | 117 dB（JIS C 5532、定格出力時、1 m） |
| 周波数特性 | | 80 Hz ～ 20 kHz（JIS C 5532 による） |
| 使用スピーカー | | 低域用：30 cm 防滴コーン型<br>高域用：ドライバー＋定指向性ホーン（水平 60 ˚ ×垂直 40 ˚ ） |
| 入力 | ワイヤレスマイク | 2 回路（1 回路ダイバシティチューナーユニット内蔵）<br>※ うち 1 回路は Bluetooth ユニットと兼用 |
| | 有線マイク | 2 回路、−60 dB *、600 Ω、不平衡<br>XLR-3-31 相当品／ホーンジャック共用型 |
| | ライン | 1 回路、−14 dB * ／ +5 dB *切り換え、10 kΩ、不平衡、<br>RCA ピンジャック× 2（ミキシング）、ステレオミニジャック（ミキシング） |
| 音質調整 | | 低域（100 Hz）：−10 dB ～ +10 dB、高域（10 kHz）：−10 dB ～ +10 dB |
| アンテナ形式 | | 内蔵アンテナ（外部アンテナも使用可） |
| 歪率（アンプ部） | | 5% 以下（定格出力時、入力：ライン（−14 dB）） |
| SN 比（アンプ部） | | 80 dB 以上（入力：ライン（−14 dB）、30 kHz　LPF） |
| チューナーユニット | | WTU-1820、WTU-D2810、WTU-BT01：合計 2 台（WTU-1820　1 台内蔵）<br>※ WTU-BT01 は 1 台まで |
| 防水性能 | | JIS C 0920 保護等級：IP22 |
| 使用温度範囲 | | −10 ～ +50℃ |
| 仕上げ | | エンクロージャ　：ポリエチレン、黒<br>パンチングネット：圧延鋼板（亜鉛めっき）、黒（マンセル N1.0 近似色）、塗装<br>パネル、ねじ　　：ステンレス |
| 質量 | | 17.3 kg |
| 寸法 | | 420（幅）× 540（高さ）× 330（奥行）mm |

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

※ Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。
TOA 株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

## ● 付属品

電源コード（5 m、3P-2P 変換アダプター付き）.... 1　　カラーマーク（6 色）..... 1
チャンネル設定ドライバー ..... 1

## ● 別売品

スピーカースタンド　　：KZ-100ST
ダイバシティチューナーユニット：WTU-1820（アナログ）、WTU-D2810（デジタル）
Bluetooth ユニット　　：WTU-BT01

※ ワイヤレスマイクは WTU-1820 の場合はアナログ方式、WTU-D2810 の場合はデジタル方式をご使用ください。


| TOA お客様相談センター | フリーダイヤル（固定電話専用） 0120-108-117 | 商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。最寄りの営業所については、TOA ホームページをご確認ください。 |
|---|---|---|
| 商品の内容や組み合わせ、操作方法についてのお問い合わせにお応えします。<br>受付時間 9：00 ～ 17：00（土日、祝日除く） | ナビダイヤル　0570-064-475（有料）<br>FAX　0570-017-108（有料）<br>※ PHS、IP 電話からはつながりません。 | |



当社は、お客様から提供された個人情報をお問い合わせ対応または修理対応の目的に利用いたします。また、修理委託目的で委託先業者へ提供することがあります。個人情報の取り扱いに関する方針については、TOA ホームページをご覧ください。



TOA ホームページ https://www.toa.co.jp/

TOA 株式会社

133-02-00021-03